

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	音楽	種目	オーケストラ等
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきざいだんほうじん かんさいふいはーもにーかんげんがくだん		
	制作団体名	公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団		
	代表者職・氏名	理事長 井上 礼之	団体ウェブサイトURL	
			https://kansaiphil.jp/	
	制作団体所在地	〒 571-0030	最寄駅(バス停)	京阪本線「古川橋駅」
		大阪府門真市末広町31-8 サンコオア第3ビル6階		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名		団体ウェブサイトURL	
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	平成29年4月 一般財団法人設立 平成30年6月 公益財団法人に移行 ※公益財団法人移行のための一般財団法人設立年月であり、楽団発足は1970年		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		理事長1名 理事14名 評議員11名 監事1名 専務理事1名 顧問1名 楽団長1名(常務理事兼任) 事務局長1名 営業推進部長1名	「楽団員」 特別契約者7名 楽員50名(オーディションにより採用) 「事務局員13名」公募により選抜	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	吉平 大作
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	松井 清悟
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		d.yoshihira@kansaiphil.jp		08031680312

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	1970年: ヴィエール室内合奏団として発足 1982年: 関西フィルハーモニー管弦楽団と改組 2003年: 特定非営利活動(NPO) 法人化 2007年: 正指揮者・藤岡幸夫が首席指揮者に就任 2008年: 首席客演指揮者にオーギュスタン・デュメイが就任 2009年: 初の単独主催による東京公演(サントリーホール)を開催 2011年: オーギュスタン・デュメイが楽団史上初の音楽監督に就任 常任指揮者・飯守泰次郎が桂冠名誉指揮者に就任 2014年: 認定NPO法人化 2015年: 音楽監督デュメイと共にスイス・ドイツ・イタリアの3カ国5都市を巡る楽団初のヨーロッパツアーを実施、東大阪市と「文化芸術のまち推進協定」を締結 2018年: 公益財団法人化 2020年: 楽団創立50周年、門真市と「音楽と活気あふれるホームタウンパートナー協定」を締結 2021年: 2021年度音楽クリティック・クラブ賞本賞を受賞。 2023年: 音楽監督デュメイと共にベルギー・フランス・ドイツの3カ国3都市を巡る楽団2度目のヨーロッパツアーを実施 2025年: 藤岡幸夫が総監督・首席指揮者に就任	
	学校等における公演実績	●直近6年間の学校公演実績: 2020年度20回、2021年度25回、2022年度16回、2023年度18回、2024年度11回、2025年度12回(2025年9月時点の予定)。 ●ワークショップなどの実績: 2008年度: 日本交響楽振興財団・奈良市文化振興センター主催の小学校における音楽教育プログラムとオーケストラ公演を実施。 2009～2011年度: 鳥取県主催ワークショップを実施。 2011～2012年度: 日本交響楽振興財団・姫路市文化国際交流財団主催の小学校における音楽教育プログラムで、ワークショップ(計20回)とオーケストラ公演を開催。 2015年度: 加東市教育委員会主催のワークショップを、市内小学校計11校で実施。 他、青少年との共演を定期的に開催(年間20回程度、大阪府、兵庫県、滋賀県、など各地で開催)。 ●楽器クリニックの実績: 2015年度から東大阪市教育委員会主催の文化芸術推進事業として、東大阪市内の中学校・高等学校の音楽クラブでの訪問指導を行っている。2024年までの10年間で延べ95校での実施。	
	特別支援学校等における公演実績	2005年度: 広島県立盲学校 2007年度: 大阪市立西淀川養護学校、大阪市立思斉養護学校、奈良県立明日香養護学校、奈良県立奈良養護学校 2009年度: 滋賀県立長浜養護学校 2012年度: 富山県立しらとり支援学校、京都市立鳴滝総合支援学校 2014年度: 香川県立香川丸亀養護学校、高知県立高知若草養護学校 2016年度: 宮崎県立みやざき中央支援学校 2018年度: 佐賀県立中原特別支援学校 2020年度: 滋賀県立三雲養護学校 2024年度: 大阪府立平野支援学校	

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/KMjiD4LYyLg	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
	PW:		

別添



なし

【公演団体名 公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	ディスカバー・オーケストラ！たくさんの発見と体験を♪			
企画のねらい	本企画は、小中学生を対象にオーケストラの魅力を身近に体感し、音楽を通じて多様な表現や文化に触れることを目的とした教育的鑑賞会です。前半では弦・木管・金管打・ハープといった各楽器の特徴を紹介しながら名曲を演奏することで、音色や役割の違いを聴き比べ、音楽の仕組みや魅力を理解することができます。後半では児童生徒が舞台上立つ「指揮者体験コーナー」や、会場全体で取り組む「ボディーパーカッション」を通じ、音楽をともに創る喜びや表現する楽しさを実際に体験します。 本企画を通して、児童・生徒には「聴くだけでなく、参加して音楽を作り出す楽しさ」「異なる楽器や表現の違いを尊重しつつ協働する体験」を伝えます。また、学びの過程で集中力や協調性、表現力が育まれ、音楽の構造やリズム・音色の理解が深まることを目的としています。さらに、鑑賞と参加を組み合わせた体験型プログラムにより、音楽を身近に感じ、創造的な感性や主体的に学ぶ姿勢の育成にもつながります。 こうした経験を通して、学校の音楽教育の理解を促進するとともに、将来的に芸術を楽しむ心や文化的教養を身につける基盤となることを目的としています。			
演目概要・演目選択理由	オーケストラの多彩な楽器群とその音色・表現を子どもたちに体感してもらいます。 各作品は、演奏する楽器の魅力を最大限に引き出すものとして選定しています。前半は楽器ごとの特徴を聴き比べながら理解を深められる曲を、後半は児童生徒が自ら参加することで表現や演奏の楽しさを体感できる曲を採用しています。 作品を通して伝えたいことは、「音楽は聴くだけでなく、参加して共につくる楽しさがある」という点です。また、リズムや旋律、表現の違いを感じながら他者と協働することで、集中力・表現力・協調性を育むことも意図しています。このように、学び・体験・共感を一体化させ、子どもたちが音楽の魅力を多角的に発見できる内容としています。			
児童・生徒の参加または体験の形態	■ボディーパーカッションでの共演(小学生向け) モーツァルトの「トルコ行進曲」に合わせ、小学生がボディーパーカッションでリズムを奏で、オーケストラと共に音楽を作り上げる楽しさを体感します。 ■指揮者体験コーナー(中学生向け) ベートーヴェンの「運命」を題材に、中学生が指揮者となってオーケストラを指揮します。テンポや強弱を自分で指示し、オーケストラとの協調を体験することで、指揮者の役割や音楽の作り方を学びます。 ■校歌の合唱 校歌の演奏では、児童・生徒全員が合唱に参加し、身近な音楽を共有する時間を作ります。 校歌を歌うことで、音楽への親しみと自分たちの学校文化への誇りを感じる場となります。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	100～800名程度	
		鑑賞人数目安	100～800名程度 ※会場規模による	
本公演演目	●アンダーソン:舞踏会の美女 ～弦楽器紹介～ ●モーツァルト:「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」“第1楽章”より ～木管楽器紹介～ ●ブラームス:「ハイドンの主題による変奏曲」より“主題” ～金管楽器・打楽器紹介～ ●コープランド:市民のためのファンファーレ ～ハープ紹介～ ●チャイコフスキー:バレエ音楽「くるみ割り人形」より“花のワルツ” ――休憩15分―― 【小学生プログラム】 ●ベートーヴェン:交響曲第5番ハ短調「運命」より“第1楽章” ●モーツァルト:トルコ行進曲(ボディーパーカッションで共演！) 【中学生プログラム】 ●指揮者体験コーナー！～ベートーヴェン作曲「運命」の指揮に挑戦！～ ●ベートーヴェン:交響曲第5番ハ短調「運命」より“第1楽章” ●ホルスト[編曲版]:組曲「惑星」より“木星” ●校歌 ●アンコール/J.シュトラウスⅠ世:ラデツキー行進曲			
原作/作曲 脚本 演出/振付				
公演時間		90	分	

本公演・ワークショップの内容

出演者	指揮:未定 司会:未定 管弦楽:関西フィルハーモニー管弦楽団(編成10型2管)						
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	関西フィルハーモニー管弦楽団 プロフィール 2020年に楽団創立50周年を迎えた。指揮者陣は2025年4月より、総監督・首席指揮者:藤岡幸夫、首席客演指揮者:鈴木優人、アーティスティック・パートナー:リオ・クオクマン、名誉指揮者:オーギュスタン・デュメイ。 2020年には門真市と「音楽と活気あふれるホームタウンパートナー協定」を結ぶなど、地元関西の人々や企業に育まれた楽団として地域密着を重視している。 BSテレ東『エンター・ザ・ミュージック』に藤岡幸夫と共に出演中。 2023年10月にはベルギー・フランス・ドイツの3カ国3都市を巡る2度目のヨーロッパツアーを開催し、各地で大きな注目を集めた。						
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者:	64	名	運搬	積載量:	4	t
	スタッフ:	7	名		車 長:	9	m
	合 計:	71	名		台 数:	2	台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間		時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去
	8:45	8:45-10:30 ※リハーサル11:30-12:00		13:30-15:00	15分間	15:00-16:45
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。					
本公演 実施可能日数 目安 <small>※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。</small>	6月		7月		8月	
	7日		7日		0日	
	10月		11月		12月	
	4日		7日		2日	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計		33日
<div>   </div> <p>公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真)</p> <p>※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場」</p>						
著作権、上演権等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続の要否		該当あり		該当コンテンツ名	校歌
	該当事項がある場合	権利者名	各校校歌作曲者		許諾確認状況	採択後手続き予定

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	<p>本公演への興味・関心を高め、児童・生徒がより主体的に音楽に向き合うことを目的としています。具体的には、以下の点を重視しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本公演で取り上げる楽器やリズム、表現の特徴を、楽しみながら自然に学べる内容とすること。 ●共演に向けた指導を通じて、児童・生徒が自発的にコンサートの準備を行い、一度きりの共演をより特別なものにする環境を整えること。 ●プロの演奏家による生の音楽に触れることで、机上学習や映像では得られない説得力を持って音楽の楽しさや表現の面白さを伝えること。 <p>また、楽器の仕組みや作曲家の背景、音楽が生まれた文化的背景について学ぶことで、児童・生徒が作品に込められた思いや表現意図を想像し、感性豊かに音楽を味わえるように工夫しています。参加型の指導を通じて、技術向上だけでなく、奏者とのコミュニケーションや協調性も育まれ、合奏の楽しさや達成感を実感することができます。このワークショップを通して、児童・生徒の主体的な学びや音楽への関心が深まることをねらいとしています。</p>		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	30人～800名 ※会場に対して鑑賞者数が多い場合は、公演を2回に分けて実施します。
	ワークショップ実施形態及び内容	<p>各学校とのヒアリングを通じて、以下の①②を時間配分を調整しながら実施します。 例えば、「全学年：45分×2コマ」、「1-3年：45分、4-6年：45分」、または「全学年：45分、吹奏楽部指導：45分」など、各学校の要望に応じて柔軟に対応します。</p> <p>① ミニコンサート型ワークショップ 弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器の奏者2名～5名で編成されたアンサンブルによる演奏を、トークを交えながら楽しんでもらいます。どの形態でも、楽器の紹介や音の出る仕組みをわかりやすく説明しながら演奏を行います。 説明の際にはプロジェクター※を使用し、視覚的にも理解しやすい工夫を取り入れ、それぞれの楽器群の特徴や音の出る仕組みを事前に学習します。この事前学習により、本公演への期待を高める狙いがあります。また、「楽曲の紹介」「楽器体験コーナー」「手拍子や打楽器による共演」「質問コーナー」などもプログラムに取り入れています。 ※学校のプロジェクターを借用させていただきます。</p> <p>【企画例】 デュオ演奏：ヴァイオリン1名とピアノ1名によるデュオ。 ※ジョージア出身の外国籍コンサートマスターによる実演及びレクチャー 弦楽四重奏 木管五重奏 金管五重奏 ※これらのアンサンブルは一例であり、学校の要望に応じてさまざまな編成での演奏が可能です。</p> <p>② 本公演での共演に向けた演奏指導・楽器クリニックの実施 吹奏楽部や弦楽部等の児童・生徒を対象に、専門的な演奏指導を行います。指導経験豊富な奏者が実演を交えて指導を行うことで、実践的・的確な技術指導が可能です。</p> <p>ワークショップの実施形態を問わず、オーケストラ本公演に向けて、子どもたちが効果的にオーケストラや音楽の知識を深め、実際の演奏に触れることで、より理解を深める内容となります。楽器紹介を通じて、音楽の魅力やオーケストラの役割を学び、本公演に対する期待と興味を高める学習の場を提供します。</p>		
	その他ワークショップに関する特記事項等	<p>①ミニコンサート型ワークショップ 体育館もしくは音楽室にて行います。 プロジェクター・ワイヤレスマイクのご用意をお願いいたします。 場合によってはピアノの移動をお願いする場合もございます。</p> <p>②演奏指導、楽器クリニックの実施 放課後、部活動の時間に合わせて行います。 重点的に指導を希望する曲やパートがあれば、事前にご相談ください。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
会場の設置階の制限		2F以上応相談		主幹引き込み電源容量			A以上
舞台設置面積	間口	18	m	奥行	10.8	m	
	高さ		m				
舞台設置場所	フロア対応	可		学校のステージでの対応		条件が合えば可	
搬入間口の広さ	幅	2	m	高さ	1.9	m	
遮光の要否	5割程度必要		緞帳の要否			あれば使用する可能性がある	
ピアノの使用について	あれば必要に応じて使用する		ピアノを使用する場合の設置位置の指定			なし	
			ピアノを使用しない場合の移動の要否			不要	
搬入車両(トラック等)の横づけ	必須		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			要相談	m以内
搬入車両の種類	大型トラック		台数	2 台			
搬入車両の大きさ	車幅	2.5	m	車長	9	m	
備考	オーケストラ設置後、児童生徒数に対し鑑賞スペースが著しく狭い場合は、人数制限をさせていただく場合がございます。※必要に応じて、体育館舞台を使う等、可能な限り鑑賞スペースを広く取るよう工夫を行います。						

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	フロア&ステージ、それぞれの「間口・奥行き」寸法をご提出お願いいたします。 ※体育館にトラックが横付け出来ない場合のみ、搬入経路を示す資料が必要です。	

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	60分程度	放課後	実技指導	吹奏楽部等、音楽系のクラブと「校歌」で共演を希望される場合、ワークショップ後の放課後を利用し、クラブ指導をさせていただきます。
	ワークショップ					
	本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	15分程度	公演当日/午前	指揮リハーサル	「校歌」指揮を希望される場合、公演当日/午前中のリハーサルに参加いただく必要があります。
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。
		個別ヒアリング事項
	1	体育館に冷暖房機器は設置されていますか？
	2	本公演当日、パイプ椅子100～120脚、長机10台、スリッパ70足をお借りすることは可能でしょうか？ ※スリッパが不足する場合は持込いたします。
	3	本公演当日、控室として小部屋2室・大部屋2室をお借りすることは可能でしょうか？
	4	
5		

別添

なし

【公演団体名 公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団】

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

本事業への応

【本事業を通じて実現したいこと】

本事業を通じて、関西フィルハーモニー管弦楽団は、全国の小中学校において質の高い生演奏に触れる機会を提供し、児童・生徒の豊かな感性と創造力の涵養を図ることを実現したいと考えています。多感な時期に生の音楽に接することは、子どもたちの心に深い感動をもたらし、単なる鑑賞体験にとどまらず、自己表現力や協調性、想像力の発展に寄与すると考えています。

全国各地の学校を巡回することで、地域間の文化資源の格差を是正し、すべての児童・生徒に平等で質の高い芸術体験を届けることができます。また、巡回を通じて地域社会との交流や共演の機会を設けることで、地域文化の振興やコミュニティの活性化にも寄与します。これらの体験を通じて、児童・生徒は音楽や舞台芸術に対する理解を深めるとともに、多角的な学びを得ることができ、将来的な文化芸術の発展に貢献する基盤を形成することを目指します。

楽団員一同、誠意と情熱をもって、次代を担う子どもたちに音楽の魅力を届けることに全力を尽くします。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

本事業のねらいを確実に実現するため、以下の工夫を講じます。

●参加型プログラムの構築

前半の楽器紹介では、児童・生徒が音色や演奏方法を体感できるよう、演奏者によるデモンストレーションや質問コーナーを取り入れます。

後半の指揮者体験やボディーパーカッションでは、演奏に参加することで、受動的な鑑賞から主体的な体験への転換を図ります。

●年齢・学年に応じた内容の調整

プログラム後半について、小学生向けには、親しみやすい曲やリズム感のある曲を中心に選曲し、参加の楽しさを重視。また、中学生向けには、表現の幅や演奏技術を意識した内容を取り入れ、理解力や表現力の深化を促します。

●事前・事後の学習支援

公演前に簡単な楽器や作曲家の解説資料を配布することで、児童・生徒が予備知識を持って鑑賞できるようにします。

公演後には振り返りや感想共有の時間を設け、鑑賞体験を学びに結び付けます。

●地域との連携

巡回先の学校と事前に打ち合わせを行い、地域の特性や環境に応じた公演内容を調整。

●安全かつ円滑な運営

参加型プログラムに伴う舞台上での安全確保、児童・生徒の行動指導、演奏のタイムマネジメントを徹底。

これらの工夫により、児童・生徒が感動体験を通じて音楽や舞台芸術への理解を深め、創造力・協調性・表現力を育むことを目指します。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

●学校との綿密な連携

ワークショップや本公演の日程に合わせ、学校と適切なタイミングで連絡を取り、メールや電話での意思疎通を徹底します。公演内容や進行については事前に打ち合わせを行い、学校の要望や特性に応じたオリジナル公演を実現します。

●重要事項の確実な伝達

日程や進行に関わる重要事項は必ず文書で共有し、後日電話確認を行うことで、誤解やミスの防止を徹底します。

●分かりやすい公演マニュアルの作成

初めてオーケストラ公演を行う学校向けに、準備物や当日の進行、タイムスケジュールを整理したマニュアルを制作し、先生方がすぐに確認できるようにします。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

●学校・児童生徒のニーズへの対応

ワークショップや本公演では、学校側の希望や児童生徒の関心を最大限考慮し、全員にとって価値ある体験となるよう内容を工夫します。児童生徒が主体的に参加できる場面を多く設け、感動や学びがより深まる公演を目指します。

●全児童生徒が楽しめる工夫

ひな壇や段差の工夫により、視覚的にオーケストラ全体が見やすく、楽器の形状や演奏者の表情、音色の違いをより感じられる環境を整えます。楽器紹介では通路を設け、児童生徒が間近で音色の違いを体験できるよう工夫します。また、音響面にも配慮し、迫力ある演奏を届けます。

●児童生徒との積極的なコミュニケーション

指揮者体験やボディーパーカッション、校歌合唱など、児童生徒が積極的に参加できるプログラムを展開します。公演中だけでなく、学校到着時から離校時まで楽団員一人ひとりが交流し、音楽への興味や関心を深めます。さらに、吹奏楽などの音楽系クラブに所属する児童生徒へのワンポイントレッスンも実施し、実技指導を通じて直接的な学びの機会を提供します。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

本公演終了後は、児童・生徒が体験した感動や学びを次の授業や活動に生かせるよう、学校の先生方と意見交換を行います。音楽の授業で演奏体験や楽器紹介の内容をどのように取り入れるかを相談し、今後の授業がより充実した学習につながるよう工夫します。これにより、公演で得た理解や体験が単発の出来事で終わることなく、授業内で振り返りや応用ができる環境を整えます。

また、先生方と協力して児童・生徒が自主的に演奏や表現に取り組む機会を広げることで、音楽理解の深化や表現力、協調性の育成にもつなげます。こうした取り組みにより、児童・生徒が学びを継続的に発展させ、音楽への関心や感性を豊かに育むことを目指します。